



細川信義先生を偲んで

エンゼル証券株式会の代表取締役で公認会計士の細川信義先生が、かねて病氣療養中のところ、平成24年11月18日に逝去（享年72歳）されました。この訃報は、杉田さんからのフェイスブックでのメッセージでした。最近お逢いする機会がなかったので、本当に驚きました。小生と同様にカメラ小僧で、いつも、裸足の下駄履きで、ゴロゴロとキャリーを引いたお元気な細川先生が……。

先生との出会いは、高専生のアルバイトをお願いした縁で15年程前だったかと思います。

突然、事務所に訪問しても、奥様（さわ子様）が、いつも隙間をうまくぬって先生に逢わせて頂けました。その奥様も13年10月に亡くなりました。その時の「ご会葬お礼」の書面で、奥様との出会いから旅立ちまでのことしたためられていて、深い愛情が溢れていたのが印象的でした。

ところで、元経済産業省の杉田定大さんとの出会いは、大阪大学の経済学部でのベンチャー講座の時に先生から紹介されました。その縁で、恒例の「3ヶ月ごとの会合」で、杉田さんの講演、交流会、その後10階事務所の畳の間での歓談が懐かしく思い出されます。

昨年12月6日18時のNHKラジオ第一放送「ラジオタ刊」では、大島春行解説委員が聞き手で杉田さんが、細川信義さんを偲んでベンチャー話をされました。そこで、先生は、「関西（日本？）のベンチャーの父」として若い起業家を応援し、IT系のグループウェアで有名な「サイボーズ」や京都大学発ベンチャーの「ドリコム」などの資金調達支援や株式公開を手助けされたと紹介されていました。

学生の起業支援で、先生に大変お世話になりました身近な2人を紹介します。

1人目は、事務所の傍らで、宮原秀夫先生（元大阪大学総長）のもとで卒業研究していた藤原礼征さん（株式会社ソリューションズ代表、トーテックサイバーセキュリティ研究所所長）が卒業研究の内容を発展させて学生時代に起業しました。2人目は、奈良高専でベンチャー研究会を立ち上げた1人の菅田太朗君が、京都大学に編入学し、大学院時代に起業（モバセンス株式会社）し、現在はベトナムで活躍しています。

息子様の正直さんが公認会計士として、後を継がれていることが心強い次第です。また、大阪ベンチャー研究会を主催されている小西一彦先生（前追手門学院大学）とは、数年前に事務所でお会いして以来、いろいろとお世話になっています。このように、多くのベンチャーの方との出会いの機会をつくって頂いたことに感謝しつつ、細川先生のご冥福を祈ります。細川信義先生、本当にありがとうございました。奥様とごゆっくり……

最後に、23年7月の大阪成蹊大学での第4回ビジネスプランコンテストで、快く審査委員長を引き受けて頂いた時の写真を掲載します。



大阪成蹊大学 マネジメント学部教授 工藤英男

右手にロマン、左手にソロバン

1. ロマンを追いすぎ挫折した「ハウステンボス」

新しい事業や会社を始める時は大きな理想や熱烈な志を抱いて創業することが多い。例えばハウステンボスを1992年に神近義邦さんが創業したが、彼は単なるテーマパークでなく、自然と人間と一体となった環境未来都市作るという壮大なロマンを抱いていた。

彼の理想は「エコロジーとエコノミーが共存する街」、すなわち環境に配慮したエコロジーの街を作ると同時にこの街は経済的にも採算があるエコノミーの街を作ることであったが、残念ながらこの理想は達成できなかった。

要するにロマンを追い求めた結果、ソロバンが甘くなり経営破綻した好例である。しかし2010年には新しい経営者としてHIS社の澤田秀雄さんが経営に乗り出し、新しいコンセプトをいれてハウステンボスを見事に再建させたことは嬉しいことである。

2. ソロバン優先で破綻したリーマンブラザーズ

2008年に世界を金融恐慌に陥れたリーマンブラザーズの破綻は企業活動を支援するのが本来の目的であるべき脇役の金融機関（血液）がそれを忘れ、主役に踊りいれ企業（身体）を殺してしまった。それは金融機関は企業を支援するために投資するが、金融機関がファンドを中心に「企業を安く買って高く売って儲ける」ことを目的としてしまった。

このような金融機関の代表がリーマンブラザーズで、厳しい貸出責任を忘れ、自分たちの実績を上げ、社員は高額給与をもらうために、金融家としての規律を忘れソロバン勘定だけに走ってしまった。しかし、一旦バブルがはじけ不動産価格が急落し始めるとこの「強欲な仕組み」が破綻し、リーマンショックにより全世界の金融機関で200兆円の損失、アメリカの株の時価総額930兆円も減少する大金融恐慌を招いてしまった。

3. ロマンとソロバンの二兎を見事に達成したキッザニア

ロマン優先でもソロバン優先でも事業として成功しないが、この両者のバランスを見事にとり成功している事業にキッザニアがある。

キッザニアのモデルはメキシコで生まれたものだが、その理念は「どんな境遇で育った子どもにも、職業が自由に選べるという夢をもってもらえる場所を提供したい」というものであった。

このメキシコで子どもが目を輝かせ仕事に取り組む施設を見学して、日本でもこのような施設をつくれれば「日本の子どもも働くことを楽しく思うようになる」考え、キッザニアの施設を日本でもオープンしたのが私の大学時代のクラスメート住谷栄之資さんである。彼はWDIの社長として、「ハードロックカフェ」「トニーローマ」「ケンタッキーフライドチキン」などを多くのチェーン店を日本で成功させた実業家で「外食王」として知られていた。

右手のロマンは十分に満足できるキッザニアであるが、左手のソロバンもしっかりしている。それは私のしごと館は入場料に頼っていたが、キッザニアの収入は入場料によるもの50%、飲食店などが15%~20%、その他スポンサーの収入が30%~35%もある。スポンサーとは三井住友銀行、全日空、関西電力などの一流企業で、各社はCSR活動としてキッザニアを支援している。金銭だけでなく本物の仕事のノウハウもスポンサーより全面的に支援され財務・経営的にしっかりしたビジネスモデルとなった。



大成学院大学教授 釣島 平三郎

「明治時代の日本人が予想した現代生活」 一およそ100年前、日本人が未来世界（現代世界）に求めた「夢」とは？一

今からおよそ100年前、地底探検小説や宇宙探検小説を書いた、フランスの空想小説家のジュール・ベルヌは、巨大な砲弾の中に人を乗せて、月に向けて発射し、月世界を探検させる空想小説を世に出し、一躍、空前のミリオンセラー作家になったことをご存じでしょうか？

60年ほど前には、米国ではすでに、人類が地球上では住めなくなる時のために、地球周回軌道上に、直径2キロの巨大な円筒形をしたスペースコロニー（人工地球）をつくり、人工重力で約20万人が住める人工環境を生み出す研究を真剣にしていました。さらに、火星の『テラフォーミング』つまり、火星を人工的に造りかえ、人類にとって地球上と全く同じ居住環境にしようと言う構想を、NASAが持っていることをご存じでしょうか？

人類は、常に、未来の世界に夢を託し、それがかなうことを心から願い、ついには、実現させてしまう歴史を歩んできました。

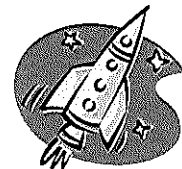
この日本でも明治時代に、今日、我々が日常的に経験している、数々の生活様式の出現を予言していました。

その主なものをご紹介します。

明治34年（1901年）1月3日の報知新聞（読売新聞）の記事が、それなのです。

- | | |
|---------------------------|--------------------------------------|
| ①無線電話で海外の友人と話ができる。 | ②居ながらにして遠距離のカラー写真が手にはいる。 |
| ③経済・文明がアジア、アフリカに移る。 | ④7日間で世界一周ができる。 |
| ⑤空中軍艦、空中砲台ができる。 | ⑥機械で温度を調節した空気を送りだす。 |
| ⑦遠くの間人と話ができる。 | ⑧電気の力で野菜が栽培できる。これは、植物工場をイメージさせてくれます。 |
| ⑨写真テレビで電話ができる。 | ⑩写真電話で買い物ができる。これは、ネットショッピングのことでしょう。 |
| ⑪電気が燃料となる。 | ⑫葉巻型の列車が東京・神戸間を2時間半で走る。 |
| ⑬台風を1カ月以上も前に予想できる。 | ⑭人の身長が180センチ以上になる。 |
| ⑮医術が進歩し、電気で無痛手術ができる。 | ⑯馬車がなくなり、自転車、自動車が普及する。 |
| ⑰無教育の人間がいなくなり、男女ともに大学を出る。 | ⑱湖や川の水で起こした電気を、国内に輸送する。 |

これらは、ほとんどが実現しています。では、現代人は、今何を未来に夢みるのでしょうか？ 第二の地球への移住？ それとも、人造人間の登場？ 今、あなたは、何を夢見ていますか？



宇宙・海洋事業コンサルタント 辻 裕彦（つじ ひろひこ）

北京の現状

私は2年ぶりに中国に帰ってきました。久しぶりに中国へ帰って感じたことを書きたいと思います。

まず、最初に飛行機に乗って驚いたことが、乗客が30～40人ぐらいいないことでした。前回、帰国した時と比べると驚くほどの差です。

北京にて不思議だったのは日本のテレビで報道されていたようなデモの様子はまったくありませんでした。みなさんは普通に生活されています。ただ、驚いたことは、物価が2年前と比べると倍以上になっていることです。また、デパートの中をのぞくと、中国ブランドや外国ブランドの売り場が多くあり、中にはユニクロのお店もありました。中国人の中には日本は好きじゃないという人が多くいますが、大半の人達は普通に日本の商品を購入します。もちろん、ユニクロのお店にも多くの中国人客が入っていました。日本ブランドが品質良く安心して使えると思っている人が多いようです。本音とタテマエですね。

また、天安門広場に行った時ですが、タクシーの運転手にデモのことについて聞いてみました。参加していた人達はごく一部の人だったようです。その人たちは安い給料で北京に出稼ぎにきて、住むところがなく、10何人で50㎡位の古いアパートで生活しているそうです。毎月の家賃は最低でも7,8千元（10万円～12万円）がかかります。ところが、彼ら給料は平均3千～5千元（4万～7万円）ぐらいです。一人でアパートを借りられる状態ではありません。お金を持っている人はどんどんお金もちになり、持っていない人はどんどん貧乏になり、貧富の差はますます広がっていく感じがします。

最後に私は日本で生活している時間は中国のそれよりも長くなりました。切実に日本と中国の関係はいつまでも友好関係であることを願いつつ終筆します。



（北京市内）

本田工業 株式会社 修 れいな

最近のミャンマー事情



「ミャンマーへは日本人の訪問者は増えていますか。」

→はい。訪問者は増えています。

2011年11月にアメリカのクリントン女史がいらっしやってから急に増えました。いままで少なかったアメリカ、イギリスからの観光客も増えましたので英語のガイドさんは足りないほどです。クリントン女史、オバマ大統領、メディアのおかげでいままでミャンマーをぜんぜん知らなかった外国人はミャンマーに目をむいてしまい、ミャンマーはどういう国か行ってみよう、ミャンマーがなんとか変わる前に行ってみよう、これからミャンマーは発展して料金なども高くなるから高くなる前に行ってみよう、ミャンマーに何の仕事が出来るのかしら一応行ってみよう、色々な目的をもっていらっしやっているお客様がいます。

「日本人以外はどの国の訪問者が多いですか。」

→フランス（観光客）、ドイツ（観光客）、イギリス（観光客）、アメリカ（観光客+ビジネスマン）、タイ（観光客+ビジネスマン）、韓国（観光客+ビジネスマン）、中国（観光客+ビジネスマン）、イタリア（観光客）、スペイン（観光客）です。

「ホテル宿泊代はどれ位高くなっていますか。」

→ホテルのクラスにもよりますが値上がり方はばらばらで、あるホテルは50%、あるホテルは100%まで高くなり、50%から100%のあいだです。

「ミャンマーの人々は日本をどのように評価していますか。」

→ビジネス面から見るとしっかりして、ちゃんとお仕事をする国、または日本に任せれば安心して任せられるのだろうと思っている人が多いです。

「これからミャンマーへ観光や経済視察などで来る人にアドバイスをお願いします。」

→どこの国でもいい人もいれば悪い人もいます。自分の利益だけを考えないで自分がこれからお仕事をされる国にてお仕事をうまく出来るためよいパートナーをちゃんと見つけてちゃんと調査して計画を立てればうまくいくと思います。

ウサギと亀の物語のように遅くなるか、どうかは気にしないで焦らないでちゃんと調査して、色々な人の話を聞いて、情報を受け取って最終的に決定という段階で行けば失敗はしないと思います。

Khine Khine Sw カイン カイン スエ

～VEC関西より～

・アベノミクス、デフレ脱却を掲げ、人気上昇中の安倍政権。そのためには中小企業、ことにベンチャーが活気づくことが重要と考えます。ベンチャー成長の具体的なプログラムが示されることを期待します。（本田）

・日々地下鉄で通勤している私にとって久しぶりに電車で揺られながらの1泊旅行を楽しんできました。残念ながら車中からの雪景色は見られませんでした。自然と過ぎていく時間に安らぎを感じ、たまには心のリフレッシュは本当にいいものですね。（濱本）

・工藤教授からは、VECにも多大のご協力を頂きました細川信義氏のご活躍を偲んでのご寄稿があり、釣島様・辻様からは示唆に富んだメッセージを頂き

ました。また最近の海外事情を修さん、カインさんから頂き大変参考になりました。（澤村）

<交流会の予定>

平成25年4月18日（木） イエローストーン・グレーシャー・アドベンチャー 代表 スティーブ・ブラウン氏

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293

2月27日（水）にはVECなど公的支援5機関によるベンチャーとエンゼル・サポーターとの合同交流会が大阪産業創造館で行なわれ、熱い交流がなされました。